

1 1 各校の主な学力向上の取組

【厚真町立厚真中央小学校】

1 特徴的な取組

6年間を見通した「学習指導」「生徒指導」「学級経営」に努め、教職員が同じスタンスに立ち、同一步調で厚真中央小学校としての一貫した指導を展開しています。

教育活動の「質」にこだわり、児童主役の学校を目指し、昨年度から「道徳の時間」を中心に、発問の仕方、話し合い活動の進め方など、教職員の指導力の向上に努めています。

2 授業づくりの視点

児童質問紙の結果から過去3年間の状況を見ると、「国語・算数の授業の内容が分かる」「友達との間で話し合う活動を行っている」と回答している児童が9割程度います。

本校では、基本的な授業の進め方を決め、全ての学年で行っています。担任が変わっても、基本的な指導の仕方が共通していることにより、児童は安心して学習に取り組むことができます。

問題解決的な学習、話し合い、ねらいを明確にした授業は、本校の授業づくりの重要な視点です。

3 家庭との連携の視点

児童質問紙の結果から過去3年間の状況を見ると、「家で計画を立てて勉強をしている」「家で学校の宿題をしている」「家で学校の授業の復習をしている」と回答している児童が9割程度います。

本校では、学校と家庭が共通理解を図り、同じスタンスで指導や声掛けができるように「保護者向け中央小ハンドブック」を作成し、全家庭に配付しています。

宿題や自分で決めた課題に取り組む家庭学習は、本校の学力向上の重要な視点です。

【厚真町立上厚真小学校】

1 特徴的な取組

本校では、子どもたちが失敗や間違いを恐れずに、主体的に学ぶことができる力を育むため、「褒める・励ます・考えさせる」などの教育活動を通して、自ら進んで学び、考えを深めることができる指導の充実に取り組んでいます。また、地域の人材を活用した学習ボランティアによる学習指導も行っており、低学年を中心に授業の中での学習支援に取り組んでいます。さらに、「すてきノート」を掲示し、情報の共有化を図っています。

2 授業づくりの視点

児童質問紙の結果から「国語・算数の授業の内容が分かる」と回答した割合が、全国平均を大きく上回っています。」子どもたちにとって「分かる授業」を視点におき、授業づくりに取り組んでいます。

特に、本校では、校内研修に全学年の授業研究を位置付け、担任の授業力向上に取り組んでいます。その中で、子ども自らが問題を発見し、解決していく能力を身に付けられるよう、問題解決型の授業に力を入れています。また、ペアやグループで学び合う場面や全体で発表する場面を設定し、基礎・基本の定着を図っています。

3 家庭との連携の視点

児童質問紙の中で「家で宿題をしている」「授業の復習をしている」の割合が、全国平均を大きく上回っています。日頃から、学校と家庭が情報を共有し、宿題の質を工夫しながら、意欲的に家庭学習に取り組んでいます。また、学校独自の実施も含め、年5回の生活リズムチェックの実施により、基本的な生活習慣の定着を図るとともに、上小ホームページの「学校のお知らせ」を活用し、学校と家庭が連携し、学力向上に取り組んでいます。

【厚真町立厚真中学校】

1 特徴的な取組

感動と実感に満ちあふれる学校づくりを目指し、基礎・基本の確実な定着に向けた分かる授業の構築とともに、外部の専門家を積極的に招いたり、学校内外で体験的な学習を充実したりして、本物に触れる感動と実感を味わわせ、主体的に学ぶ態度の育成を図っています。

学級づくりのために年間を通じた合唱の取組や、体育大会や学校祭で協力してやり遂げる体験をもとに、思いやりや協力、努力する心を育て、よりよい人間関係の中で安心して学べる環境づくりや、将来の社会で生きる力の育成に努めています。

2 授業づくりの視点

生徒質問紙の結果から「授業の中でめあてを確認し、最後に学習内容を振り返る活動をよく行った」「先生は分かるまで教えてくれる」と回答している生徒が全国と比較して大幅に高い状況です。

授業では、はじめにねらいを明確にして、個人や集団で課題を解決し、表現したり、学んだことを確認したりするなどの指導や、個別指導を丁寧に行うことが本校の授業づくりの視点です。

3 家庭との連携の視点

生徒質問紙の結果から、「宿題、復習をしている」と回答している生徒が全国と比較して大幅に高い一方、家庭学習の時間が少なく、テレビやDVDを見る時間が長い状況です。

本校では、家庭学習ノートの提出や、放課後学習「蓄」、長期休業中の学習会「厚中寺子屋」の取組とともに、全学年保護者を対象とした「評価・進路説明会」や教育相談、学級通信などにより、家庭との共通理解のもとに学習習慣の確立を図ることが、家庭との連携の視点です。

【厚真町立厚南中学校】

1 特徴的な取組

8:10~20の10分間を活用し朝の読書運動を行い、落ち着いた雰囲気の中、集中して読解力を高めています。また、スクールバスの発車時刻までの放課後の時間(15:30~16:00)を有効に活用し、補充学習等の自主学習やテストに向けた勉強の場を設け、全教職員でサポートしています。

2 授業づくりの視点

生徒質問紙の結果から「自分の考えを発表する機会が与えられている」「授業の最後に学習を振り返る活動をよく行っている」とすべての生徒が回答しています。

本校では、より個に合ったきめ細かい指導を行うために、校務分掌等を工夫して、数学の授業を複数の教員で行っています。また、道立高校の入試にも活用されている「ほっかいどうチャレンジテスト」を年間指導計画に位置付け、計画的に活用しています。

3 家庭との連携の視点

生徒質問紙の結果から「家で自分で計画を立てて勉強している」と肯定的に回答している生徒が全国平均の48.4%に対し、本校は39.1%高い87.5%という結果になっています。

本校では、スモールメリットを活かし、通知表に観点別評価とその評定以外に、各教科所見を設け、一人一人の学習の様子を家庭にお知らせするとともに、国社数理英の学習方法を説明する「学びの集い」を行い、一人一人の学びをサポートするために家庭との連携した取組を行っています。